

アルハイテック

廃アルミから水素製造

富山で検証。プラント稼働

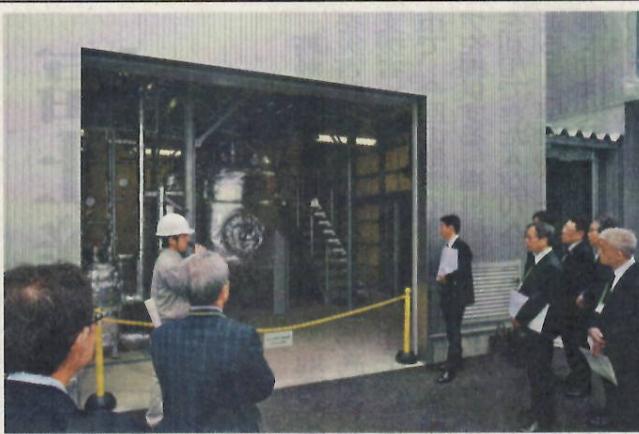


トナミホールディングス
(HD) や朝日印刷など県内
外7社が共同出資する「アル
ハイテック」(高岡市オフィ
スパーク、綿貫勝介社長)は

22日、アルミ系廃棄物から水
素を製造する独自システムの
実用化に向け、朝日印刷富山
工場(富山市婦中町板倉)の
敷地内で検証プラントを稼働
させた。将来のシステム販売
に向けて、稼働データを収集
し改良などに役立てる。
プラントは分離機と乾留
炉、水素発生装置で構成する。

医薬品や食品用の
包装資材の製造過
程で出る端材な
ど、アルミがコー
ティングされてい
る紙廃棄物から高
純度のアルミを回
収。特殊なアルカ
リ溶液と反応させ
て水素を発生させ
る。処理の過程で

朝日印刷富山工場の
敷地内に設置された
水素発生装置(富山
市婦中町板倉)



取り出し、それぞれ再資源化
する。

水素発生装置は1時間当たり2キロの水素を作ることができ、今後は5キロに増やす予定。水素5キロで燃料電池車を約700キロ走らせることができる。一連の事業はNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)プログラムに採択されている。

22日は現地で完成披露会があり、綿貫社長とアルハイテック会長を務める炭谷茂・元環境事務次官(高岡市出身)、朝日印刷の濱尚社長ら約60人が出席。綿貫社長は「プラントを活用して将来の製品化につなげ、環境エネルギー社会に貢献したい」とあいさつした。